

地区防災計画の活性化を目指すシンポジウム概要報告

公益財団法人都市防災美化協会主催の地区防災計画の活性化を目指すシンポジウム（住民主体の防災計画はいかに可能か？）が10月31日（水）に日比谷公園緑と水の市民カレッジで開催されました。当日は定員80名を超える参加をいただき実施することができ、大盛況のうちに終了致しました。

造冊 CPD プログラム 3.5 単位
地区防災計画の活性化を目指すシンポジウム

『住民主体の防災計画はいかに可能か？』



地震や風水害などの大規模災害では、行政の災害対応力が追いつかないため、住民や各種団体などによる自助・共助の取り組みが必要不可欠といわれます。そこで、2013年6月、災害対策基本法によって、住民などが主体的に防災計画を策定できる「地区防災計画制度」が導入され、様々な先進事例が発掘されてきました。ところが、地区防災の現場からは、「防災計画づくりは難しい」、「防災活動が広がらない」、「担い手がいらない」などの悩みも多く聞かれます。そこで、本シンポジウムでは、地区防災計画に関わる様々なお立場の方をお迎えして、「住民主体の防災計画」に必要な要件と課題、今後の制度運用のあり方などを考えます。

日 時 2018年 10月 31日（水） 13:15（13:00 開場）～
場 所 緑と水の市民カレッジ2階（日比谷公園内）
参 加 費 無料（要申込、先着 100名様）
*参加者の皆様に2018年刊行の報告書「地区防災計画制度運用の活性化に関する調査・研究」を進呈いたします。

講 演 1「シンポジウムの趣旨」
吉川忠寛（(株)防災都市計画研究所長、内閣府「地域で津波に備える地区防災計画策定支援検討会」委員）
2「地区防災計画の推進について」
山口徳彦（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官補佐）
3「地区防災計画は戦略か戦術か」その先にみえるもの
高山宗久（SYM三町会災害連合会 会長）
4「首都を守る防災公園の取り組み」
菊池正芳（(公財)東京都公園協会 公園事業部長 兼 防災担当部長）
5「地区防災計画の可能性：どこまで伸びしろはあるか？」
加藤孝明（東京大学生産技術研究所准教授、内閣府「ジェンダーと防災有識者」懇談会 座長）内閣府 地域で津波に備える地区防災計画策定支援検討会委員）

討 論 コーディネーター 吉川忠寛



【シンポジウム内容】

1. 主催者挨拶

中島 宏氏（公財）都市防災美化協会
理事長より主催者挨拶が行われた。



吉川 忠寛氏（株）防災都市計画研究所 代表取締役所長）より本シンポジウムの趣旨説明が行われた。以下の項目について説明し、地区防災計画制度の問題提起をした。

- ・地区防災計画の特徴と現状
- ・地区防災計画策定の成立要因
- ・地区防災計画の目標
- ・地区防災計画活性化の課題
- ・地区防災計画の「進化」の方向

3. 講演

（1）「地区防災計画の推進について」

講師 内閣府政策統括官（防災担当）

付参事官補佐 山口 徳彦氏

講演内容は以下の通り。

- ・地区防災計画の取り組み事例
- ・内閣府のモデル事業の中で、特色ある活動事例
- ・内閣府が今年4月に実施した地区防災計画の策定状況の調査
- ・今年度の内閣府のモデル地区のテーマ



（2）「地区防災計画は戦略か戦術か」その先にみえるもの」

講師 S Y M三町会災害連合会 会長 高山 宗久氏

講演内容は以下の通り。

- ・湯島地区防災計画の対象
- ・湯島地区防災計画推進委員会
- ・湯島地区における訓練等の取り組み
- ・子育て世代のネットワークの確立や世代間交流



(3)「首都を守る防災公園の取り組み」

講師 公益財団法人 東京都公園協会 公園事業部長
兼 防災担当部長 菊池 正芳氏

講演内容は以下の通り。

- ・公園の避難所としての機能
- ・東京都地域防災計画に位置付けられた都立公園の役割
- ・大規模救出救助活動拠点の機能を確保するための取り組み
- ・地域連携防災訓練等の公園を利用した訓練



(4)「地区防災計画の可能性：どこまで伸びしろはあるか？」

講師 東京大学生産技術研究所 准教授 加藤 孝明氏

講演内容は以下の通り。

- ・地区防災計画の策定に必要なキーワード
- ・地域防災の標準プログラム
- ・自助・共助・公助のあるべき姿の概念
- ・地区防災計画の内容はどうあるべきか

4. パネルディスカッション

コーディネーター吉川 忠寛氏（株式会社 防災都市計画研究所 代表取締役所長）から、以下の論点が提示され、パネリストと活発な議論が行われた。

論点

- ・「地区防災計画制度」の活用をいかに普及させるか。
- ・住民と行政の関係をどう構築していくか。
- ・組織の実効性とは。
- ・防災活動における女性の視点とは。
- ・「地区防災計画」の質をどのように向上、充実させていくか。

【アンケート結果】

参加者アンケートの回答も数多くあった。その集約は「様々な視点の話が聞けたこと」「分かりやすい説明や自由な発言が良かった」「地区防災計画の意識や重要性が問題提起された」等の点が良かったと評価された。

又、課題として「意識の低い人を巻き込む参加の場作り、意識づくり」「関心の薄い地域住民の地区防災計画策定への共通理解」等があげられる。

更には、「自分たちの居住地の課題」「発災時の地域住民の役割」など幅広い意見が寄せられた。

参加者の積極性がうかがわれた。